

令和5年度

東明小だより

令和6年1月26日
第11号



能登半島沖地震を通して



校長 吉田 尚子

連日、能登半島沖地震の惨状が伝えられます。まずは、今回の地震で被害に遭われた方へ、心より追悼の意を表します。

はるか昔のことで、すでに知らない人も多いかもしれませんが、私自身、岐阜県史上最悪の水害と言われている「9・12豪雨災害」を体験しました。

当時、私は小学生で、長良地区に住んでいました。出張に出かけた父は、交通機関が不通となり、帰宅することができず、母とまだ小学生や幼稚園の私たち兄弟だけでその日を迎えました。

前日から降る雨は、どんどんと激しくなり、雨の音が怖くて、夜寝ることはできません。家の前の側溝からは水が溢れ出し、あっという間に、道路が膝の高さまで水でいっぱいとなりました。一番怖かったのは、トイレです。トイレの水を流すと逆流し、もう少しの所で家の中に溢れそうになりました。それが怖くて、トイレにも行けなかったことを今でも覚えています。

さらに水かさが増えてくると、家の前には、鵜飼舟が通り、おにぎりなど食料を配っていただきました。「もうすぐ、長良川の堤防が決壊するから、避難をしないといけない。」と近所の人と話しているうちに、突然水が引き始めました。後でわかったのですが、決壊したのは長良川ではなく安八の堤防だったのです。

水が家から引いた後も大変でした。市の方が来て、壁、床、全ての家じゅうの消毒をホースのようなものを使い行いました。使えなくなったものを処分するだけでも大変な作業です。学校に登校しましたが、まだ休んでいる子も何人かいました。友達の家は、2メートル近く床上に水が押し寄せ、2階へ避難した話や、壁が崩れ落ちて危険な状態になった話など、子どもながらに胸が痛くなりました。

一番苦しかったのは、「私たちが助かったのは、安八の堤防が決壊したからではないか。」という思いです。新聞やテレビで安八町の被害の様子が映し出されるたび、苦しい思いになりました。

その後、私の家を含めて多くの家が建て替えをしましたが、どの家も次の災害に備えて、道路よりも高い位置に家を建て替えました。

学校では「命を守る訓練」を毎年行っています。授業中や休み時間の避難に加え、不審者からの避難も訓練します。災害は、いつどこで起こるかわかりません。しかし、命より大切な物はないのです。今回の能登半島沖地震を踏まえ、より一層安全教育に力を入れるとともに、どんな時も自分の命は自分で守れる子どもたちを育てていきます。



(命を守る訓練の様子より)